

令和7年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号		授業科目名	財務会計特論 B			担当教員	岩下 尚義				
		英語授業科目名	Financial Accounting B			単 位	2	学 期	後期		
対象年次	1・2年次	クラス指定	なし			他との関連	租税法特論 A, B				
履修条件	財務会計の基本的な理解を有していること										
テーマ・副題	会計学の本質的な理解と会計基準の研究・検証										
授 業 の 教育目的 ・ 目 標	会計は「ビジネスの共通言語」と呼ばれている。会計の本質的な理解を深めることは、会計学の研究だけでなく、租税法や経営学など様々な学問や実務にとって有用である。本授業では前期から継続して IFRS の理解を深めていく。特に個別論点を掘り下げていくことで、総合的な会計力を高めていくことが目標である。										
授 業 の 理解度の 到達目標	会計学、特に財務会計は「外部報告目的」の会計である。現行基準の制度を理解するとともに「なぜその情報を報告することが求められているのか」について繋ぎ合わせられることを到達目標とする。										
授業キーワード	財務会計、企業会計基準、国際財務報告基準（IFRS）、										
授業の内容	会計学の本質的な理論（原理）と現行基準の制度について解説する。										
授業の方法	財務会計特論 A に引き続き、テキスト『IFRS 会計学基本テキスト(第 7 版)』を用いて、各テーマごとに発表者を決め、レジュメ等にまとめ、発表・意見交換を行う。										
授業展開	<table><tr><td>1. 前期の振り返り 2. IFRS⑨（棚卸資産・有形固定資産） 3. IFRS⑩（無形資産） 4. IFRS⑪（減損・売却目的の非流動資産） 5. IFRS⑫（リース） 6. IFRS⑬（引当金、退職給付） 7. IFRS⑭（ストック・オプション） 8. IFRS⑮（金融商品）</td><td>9. IFRS⑯（ヘッジ会計） 10. IFRS⑰（法人所得税） 11. IFRS⑱（企業結合） 12. IFRS⑲（連結・持分法） 13. IFRS⑳（セグメント情報 他） 14. IFRS㉑（期中財務報告、初度適用） 15 後期のまとめ</td></tr></table>									1. 前期の振り返り 2. IFRS⑨（棚卸資産・有形固定資産） 3. IFRS⑩（無形資産） 4. IFRS⑪（減損・売却目的の非流動資産） 5. IFRS⑫（リース） 6. IFRS⑬（引当金、退職給付） 7. IFRS⑭（ストック・オプション） 8. IFRS⑮（金融商品）	9. IFRS⑯（ヘッジ会計） 10. IFRS⑰（法人所得税） 11. IFRS⑱（企業結合） 12. IFRS⑲（連結・持分法） 13. IFRS⑳（セグメント情報 他） 14. IFRS㉑（期中財務報告、初度適用） 15 後期のまとめ
1. 前期の振り返り 2. IFRS⑨（棚卸資産・有形固定資産） 3. IFRS⑩（無形資産） 4. IFRS⑪（減損・売却目的の非流動資産） 5. IFRS⑫（リース） 6. IFRS⑬（引当金、退職給付） 7. IFRS⑭（ストック・オプション） 8. IFRS⑮（金融商品）	9. IFRS⑯（ヘッジ会計） 10. IFRS⑰（法人所得税） 11. IFRS⑱（企業結合） 12. IFRS⑲（連結・持分法） 13. IFRS⑳（セグメント情報 他） 14. IFRS㉑（期中財務報告、初度適用） 15 後期のまとめ										
成 績 評価方法	発表内容（60%）および授業への取組み姿勢（40%）を評価要素とする。										
成 績 評価基準	総合点が 80 点以上を A、79～70 点を B、69～60 点を C、59 点以下を D とする。										
テキスト	橋本尚・山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト(第 7 版)』（中央経済社、2022 年）										
参考図書	授業の中で指示する。										
準備学習に 必要な時 間、又はそ れに準じる 程度の具体 的な学習内 容	① 発表担当の場合 テキストを読み込み、理解を深めるとともに、他者に分かりやすい説明ができるよう準備を進めること。この準備は本授業の学習だけでなく論文作成やプレゼンテーションの練習にも通じる。 ② 発表でない場合 テキストを読み、意見交換ができる準備をすること。										
学生への メッセージ	本講義は発表とディスカッションを重視している。よって、発表する担当箇所だけでなく、日々の自発的な学修・研究を通じて、会計力を高めておくことが求められる。活発な議論をしましょう。										
オフィスアワー	授業の前後または下記のメールにより受け付ける。										
連 絡 先	電話番号	0274-42-2828 （内線：5407）			メールアドレス	iwashita@jobu.ac.jp					
人数制限	なし										